

第4回エコプレミアムクラブシンポジウム

キリングループのCSRについて

2007年7月30日

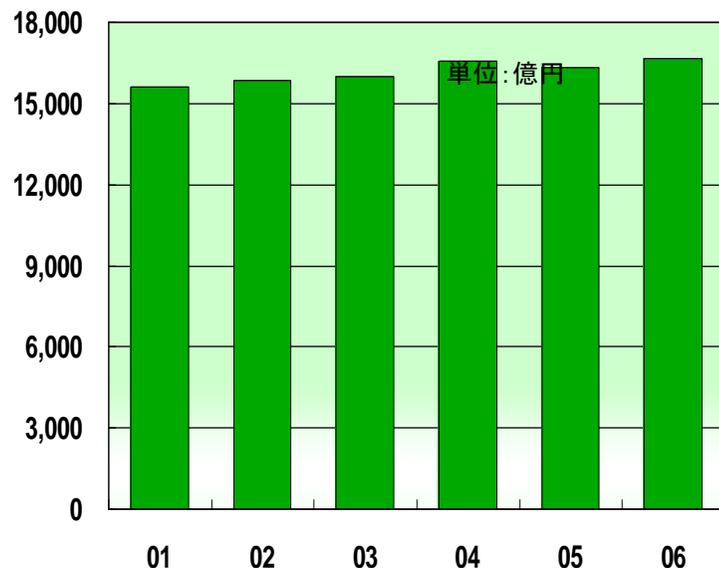
キリンホールディングス株式会社
CSR推進部長 佐々木 稔郎

1. キリンググループ概要

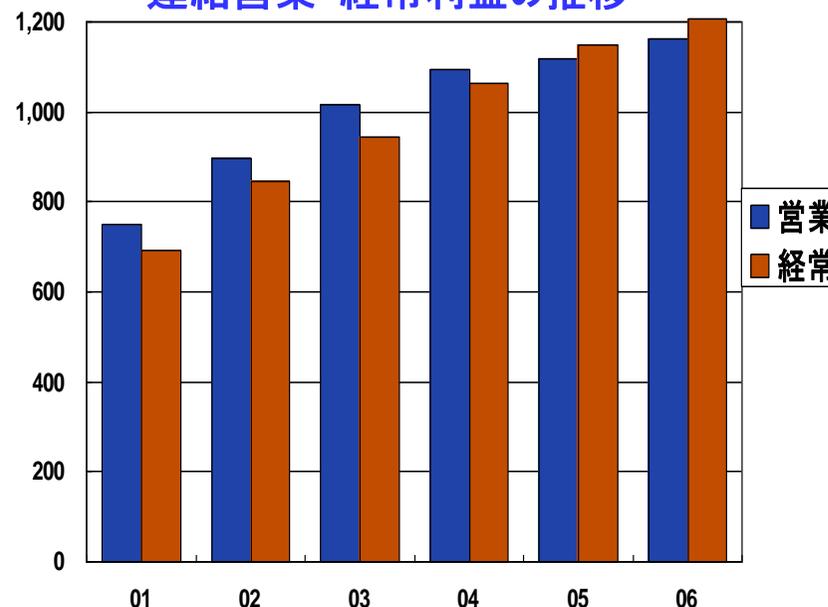
キリングループ概要

設立	1907年2月23日 (創立100周年)
主要事業	酒類、飲料、医薬品の製造販売
社長	加藤 壹康 (2006年3月30日就任)
グループ連結子会社	272社
従業員	23,332人(単体: 5,040人)
連結売上高	16,659億円(2006年12月期)
連結営業利益	1,163億円 (2006年12月期)
配当	17円(2006年12月期予定) 07年12月期は18円予定

連結売上高の推移



連結営業・経常利益の推移



2015年グループビジョン・グループスローガン

グループ経営理念

キリングroupは、自然と人を見つめるものづくりで、「食と健康」の新たなよろこびを広げていきます。

KIRIN WAY

価値観

お客様本位・
品質本位・
先駆・誠実

行動の基本姿勢

Challenge・
Commitment・
Collaboration

グループ行動宣言

お客様価値の創造・人間性の尊重・
株主価値の向上・社会貢献・環境配慮

2015年グループビジョン

- いつもお客様の近くで様々な「絆」を育み、「食と健康」のよろこびを提供します。
- 「発酵・バイオ」「モノづくり」「リサーチ・マーケティング」の技術を総合し、独自の価値と最上の品質を追求します。
- 酒類・飲料・医薬を主力事業として、アジア・オセアニアのリーディングカンパニーを目指します。

コア事業

酒類



キリンビール(100%)
ライオンネイサン (46%)
サンミゲル (20%)
麒麟(中国)投資有限公司 (100%)
麒麟啤酒(珠海)有限公司 (100%)
大連大雪啤酒股份有限公司 (25%)
杭州千島湖啤酒有限公司(25%) その他

清涼飲料



キリンビバレッジ (100%)
Coca-Cola Bottling Company of
Northern New England, Inc. (100%)

コアテクノロジーを 生かした 多角化事業

医薬



アグリバイオ



健康・機能性食品



コア事業を サポートする その他事業

物流

エンジニアリング

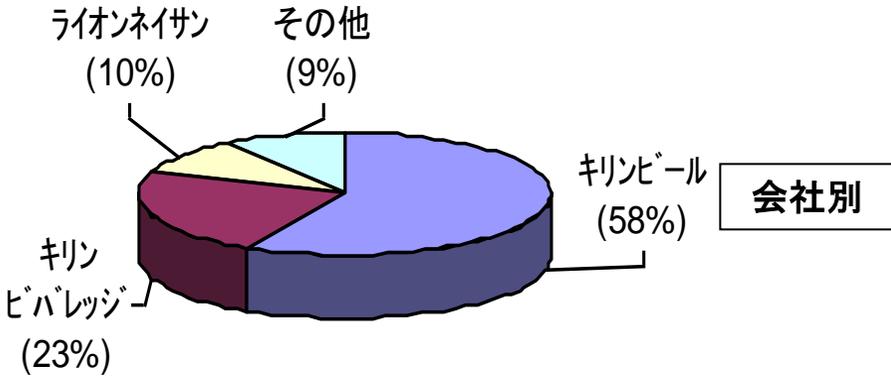
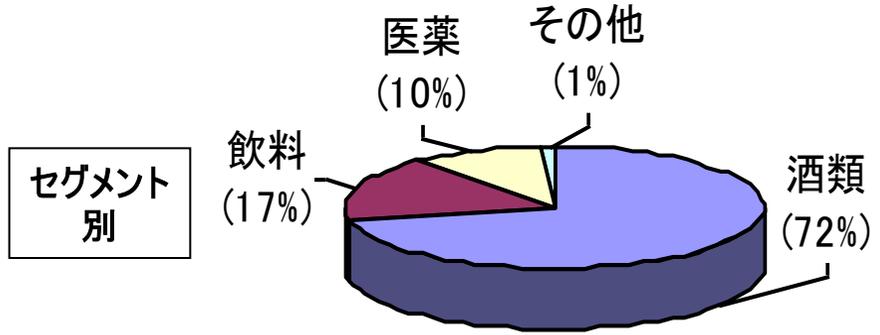
不動産

その他

セグメント別・会社別売上高・営業利益（2006年実績）

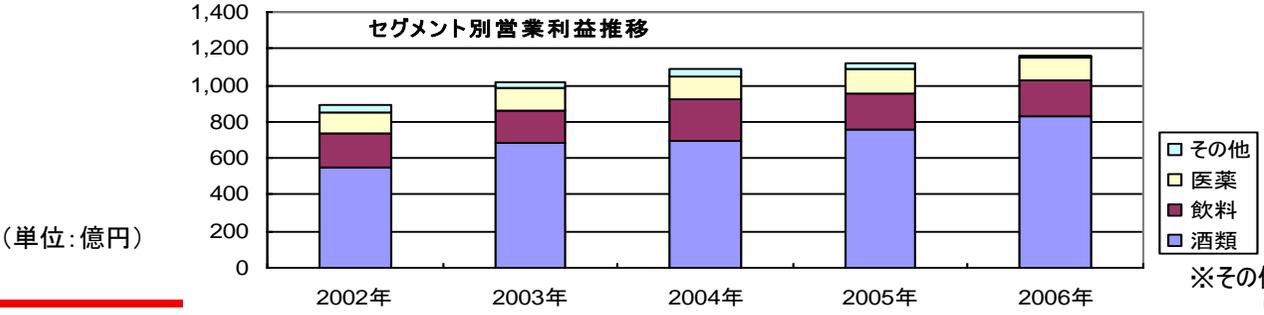
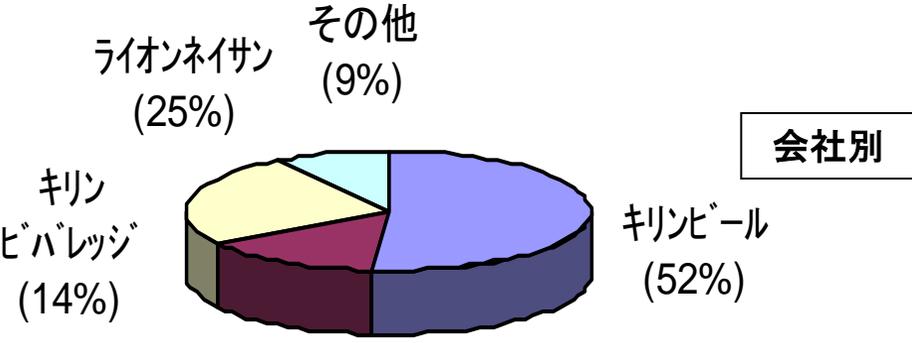
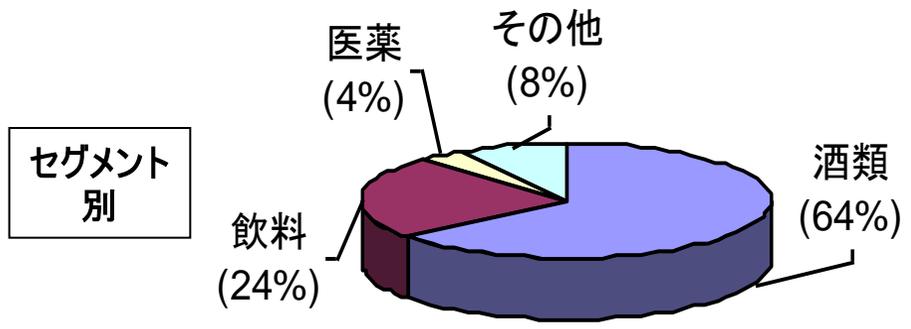
売上高 1兆6,659億円

※各会社の売上高は内部取引等消去前



営業利益 1,163億円

※各会社の営業利益は内部取引等消去前
※ライオンネイサンの営業利益は無形固定資産償却調整



キリン・グループ・ビジョン2015と中期経営計画目標

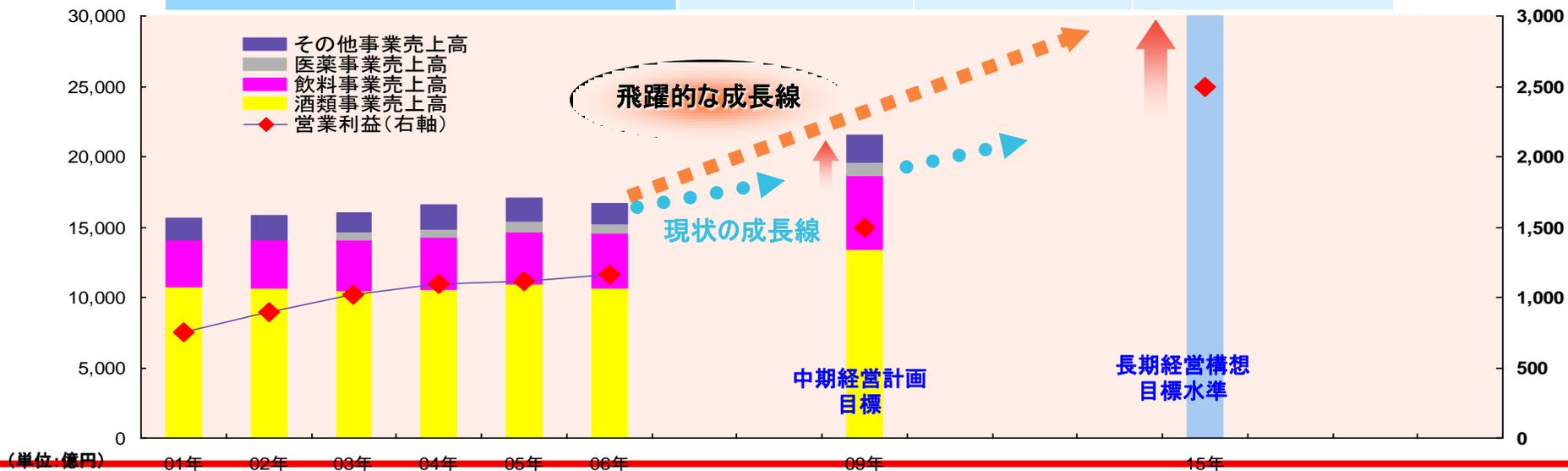
おいしさを笑顔に

KIRIN

KV2015 グループビジョン

- いつもお客様の近くで様々な「絆」を育み、「食と健康」のよろこびを提供する
- 「発酵・バイオ」「モノづくり」「リサーチ・マーケティング」の技術を総合し、独自の価値と最上の品質を追求する
- 酒類・飲料・医薬を主力事業として、アジア・オセアニアのリーディングカンパニーを目指す

到達目標		2006年	2009年目標	2015年 目標水準
売上高	酒税込み	1.68兆円	2.15兆円	3兆円
	酒税抜き	1.27兆円	1.70兆円	2.5兆円
営業利益率	対酒税抜き	9%	9%	10%以上
海外比率	売上高(酒税抜き)	18%	22%	約30%
	営業利益	27%	—	約30%
ROE		5.4%	7%以上	10%



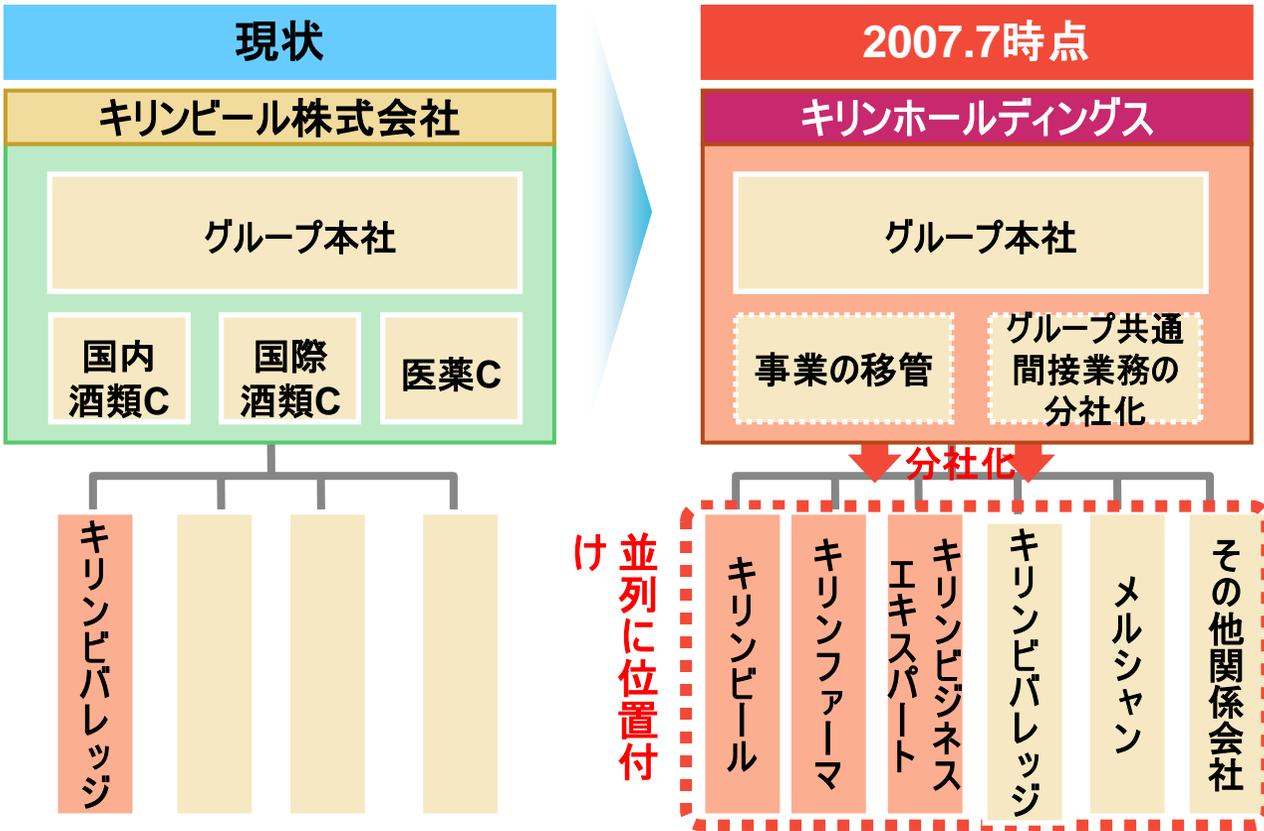
純粋持株会社制の導入

2006年10月 キリンビバレッジ社を完全子会社化

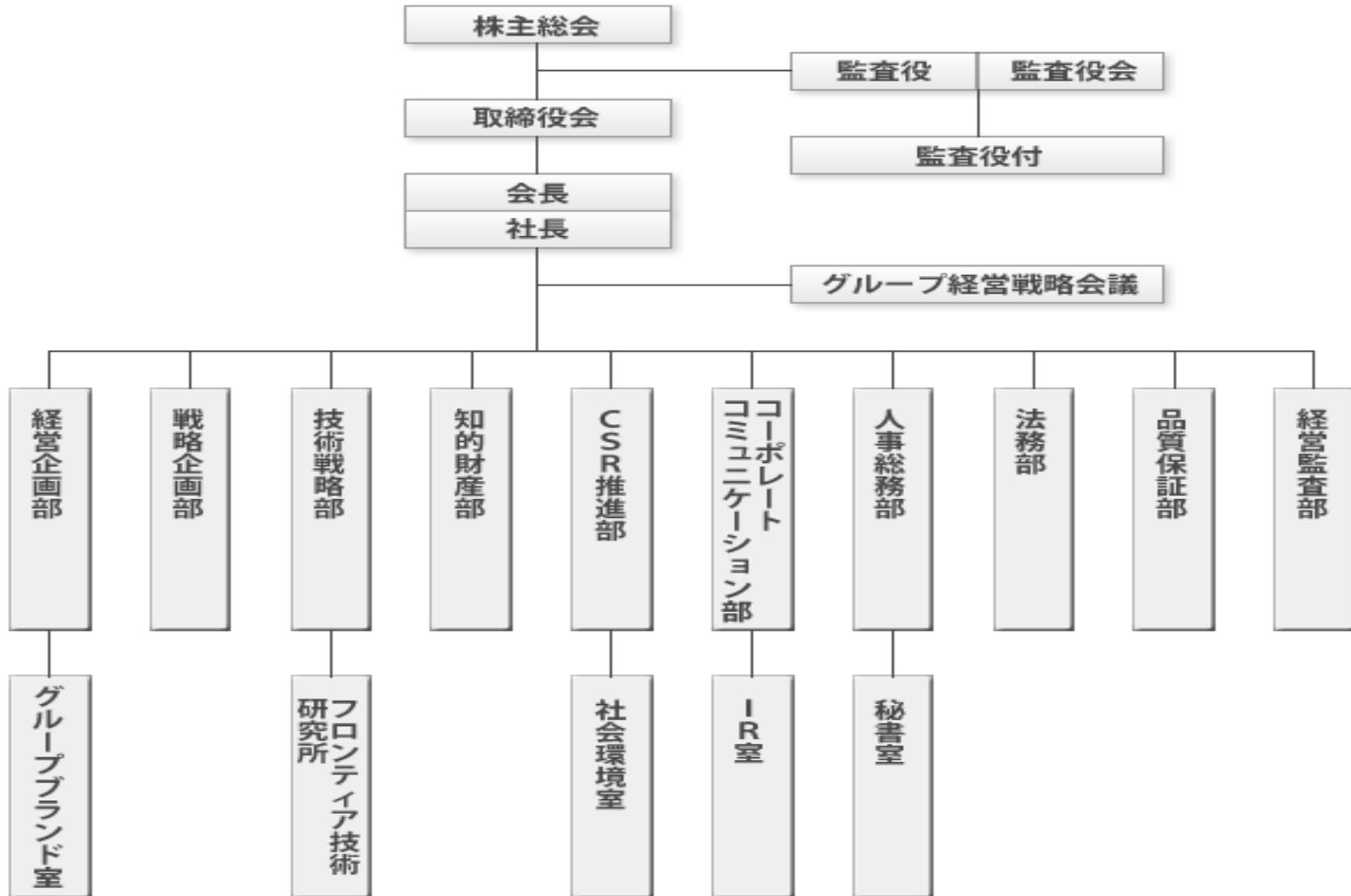
2006年12月 メルシャン社との業務・資本提携

2007年7月 純粋持株会社制導入

- 国内酒類事業、医薬事業、グループ共通の間接業務を分社化
- 国内酒類事業、飲料事業、医薬事業などを並列に配置



キリンホールディングス(株)の組織図



2. キリンググループのCSR

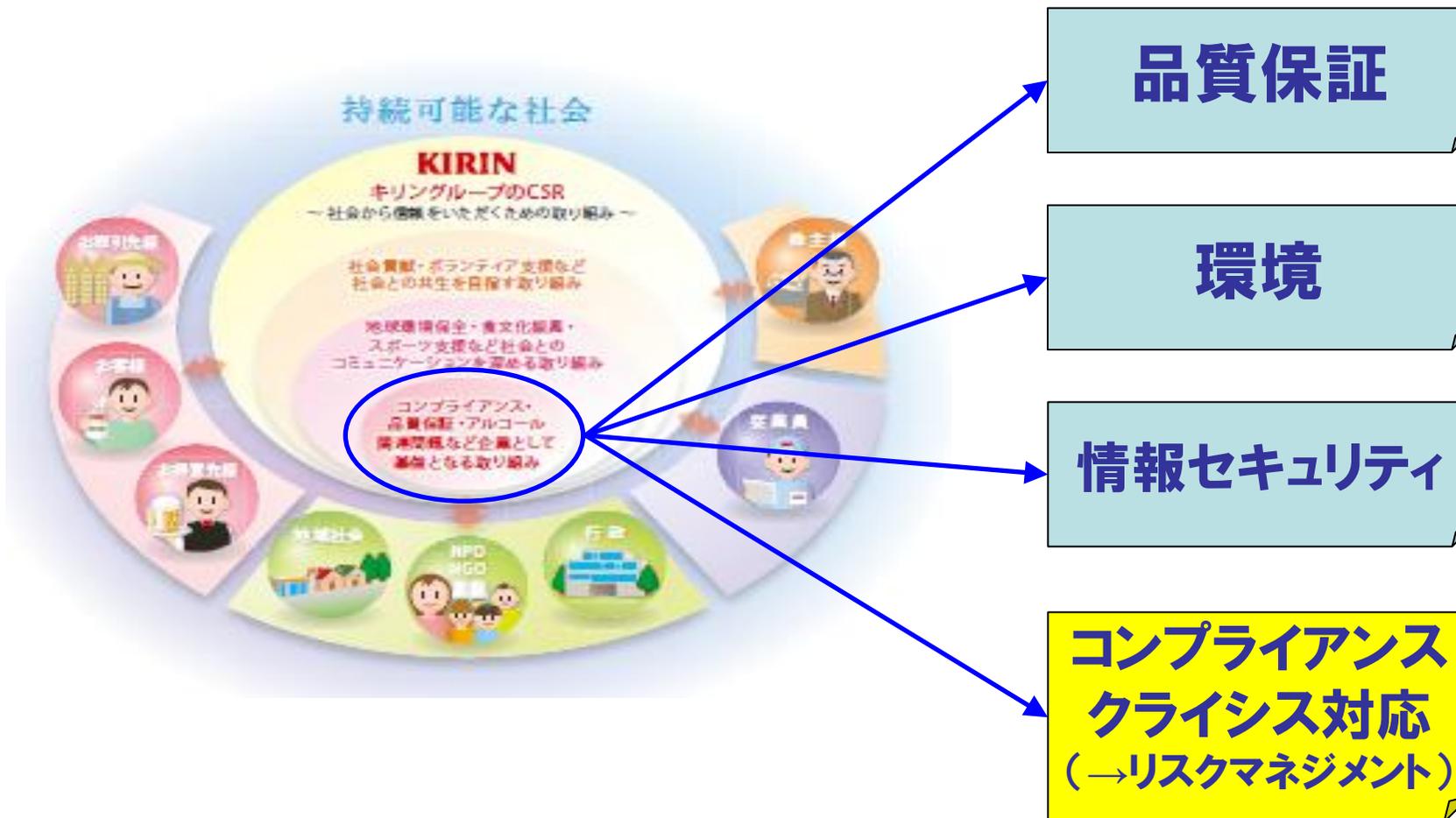
キリングループのCSR【全体】

キリングループはCSRを「**社会から信頼をいただくための取り組み**」にとらえ、大きく次の3つの取り組みをすすめています。

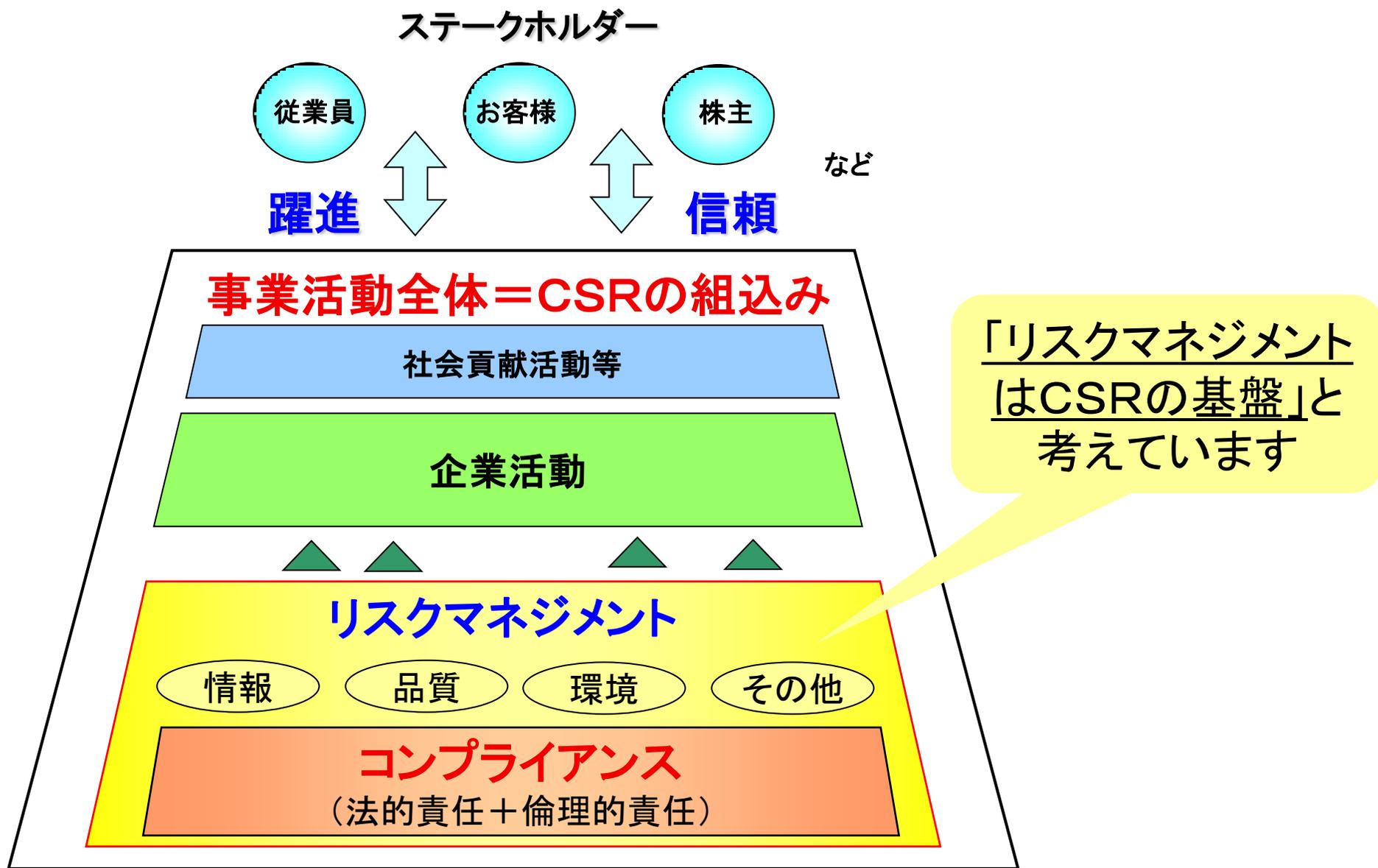
- ①コンプライアンス・品質保証・アルコール関連問題など企業として基盤となる取り組み
- ②地球環境保全・食文化振興・スポーツ支援など社会とのコミュニケーションを深める取り組み
- ③社会貢献、ボランティア支援など社会との共生を目指す取り組み

これからも、キリングループを支えていただいているお客様をはじめとしたステークホルダーの皆様と日々コミュニケーションをとりながら、大地の恵みを糧に事業を営む企業グループとして、地球環境保全をはじめとした社会的な役割を主体的に果たし、持続可能な社会に貢献できるキリングループのCSRを推進していきます。





リスクマネジメントはCSRの基盤



リスクマネジメントの取り組みの必要性

企業の社会的責任(CSR)
が求められている

内部統制システムの整備が
必須に

社会の要請が厳しくなっている

グローバルコンパクトへの
参加

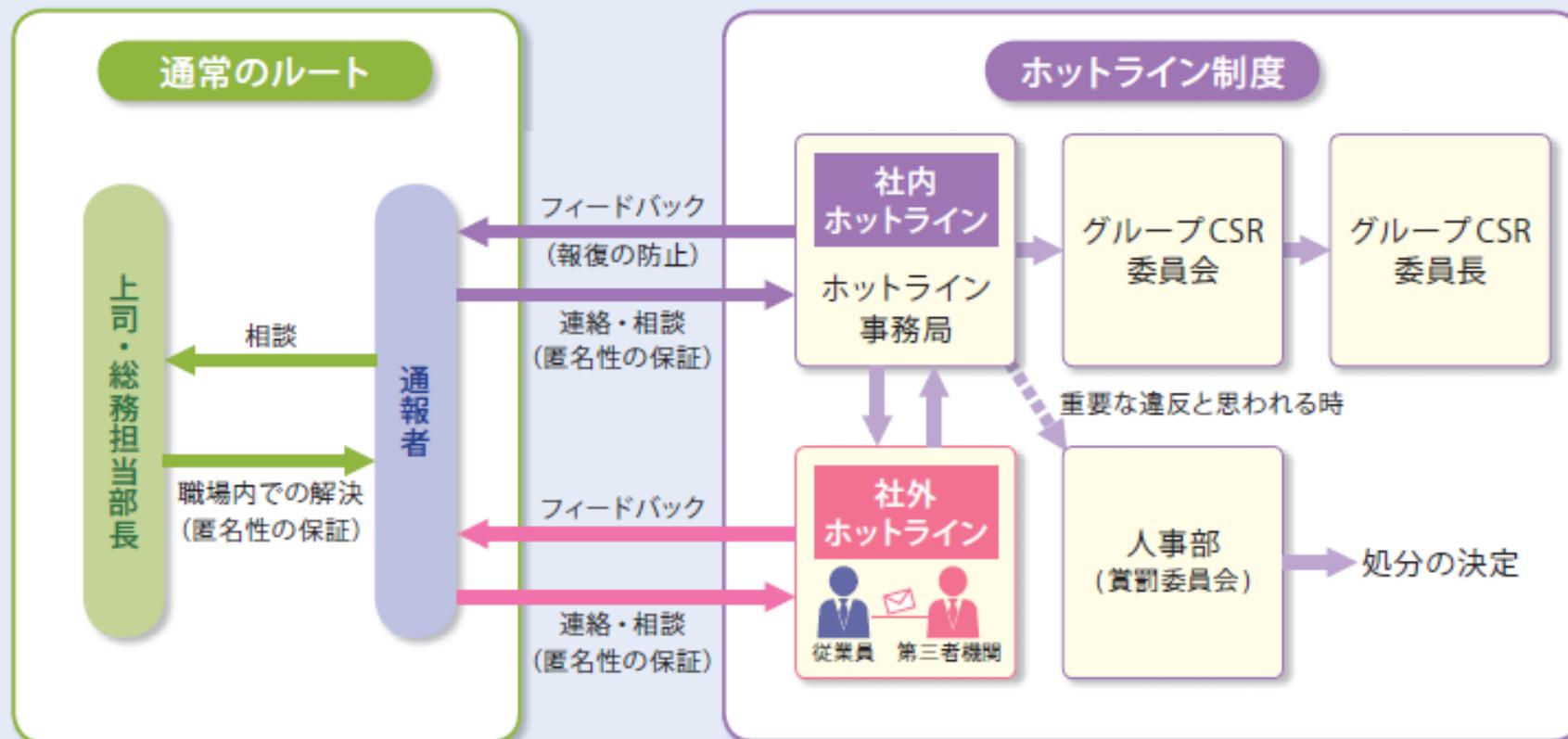
リスクマネジメントの取り組みが必要

社会からの信頼をいただき、キリングループの強みに

<社内説明資料より>



■ホットラインのフロー図



◆社内ホットラインと社外ホットラインを設置しています。

◆社外ホットラインは、2007年7月からグループ共通で運用します。

e-learningの画面



集合研修の様子



◆従業員一人ひとりのコンプライアンス意識を向上すべく、集合研修(ケースメソッド)と、オンライン研修(eラーニング)の2種類の研修を実施しています。

◆コンプライアンス意識調査の結果を研修プログラムに反映させています。

◆主要なグループ企業でも、同様の研修を実施しています。

キリングループのCSR 【社会とのコミュニケーションを深める取り組み】



キリン社のサッカー日本代表応援アクションプラン

KIRIN WORLD CHALLENGE 2006

◆「キリンカップサッカー」、「キリンチャレンジカップ」の開催を通じて日本代表と海外のナショナルチームとの対戦の場を提供し、日本代表の強化を支援しています。



サッカー支援の全体像(2006年の事例)

おいしさを笑顔に

KIRIN

KIRIN WORLD CHALLENGE 2006

日本代表を支援する活動の総称
オフィシャルスポンサー権利を活用した活動

A代表支援

日本代表の強化支援
冠協賛大会の実施
海外遠征、合宿時の飲料の
提供等

A代表だけではなく
次世代育成や裾野を
広げる活動として各層
の代表すべてをオフィ
シャルスポンサーとし
て支援しています。

U-23, U-20、U-18
なでしこジャパン

JFAファミリーフットサル
工場応援企画
W杯応援企画

裾野を広げる活動・次世代育成を行う活動
日本代表を応援する活動、日本代表を応援する人を応援する活動

キリンカップサッカーと日本代表の戦歴

1978年

日本で初めてのサッカーの国際大会「ジャパンカップ」開催

1980年

「ジャパンカップ・キリンワールドサッカー」と冠大会にして継続支援

1985年

現在の名称「キリンカップサッカー」となる

1992年

「キリンカップサッカー」が、FIFA公認国際Aマッチとなる

1993年

Jリーグ開幕この年 アジア地区最終予選で惜しくもW杯アメリカ大会出場を逃す

1997年

アジア地区最終予選を通過し、W杯フランス大会出場権を獲得(初出場)

1998年

W杯フランス大会に初出場 予選リーグ敗退

2002年

日韓共催ワールドカップホスト国として出場 決勝トーナメント進出ベスト16

2005年

2006FIFAワールドカップドイツ大会アジア地区最終予選 5勝1敗の予選1位で通過

2006年

W杯ドイツ大会出場 予選リーグ敗退



水の恵みを守る活動

●キリンビール水源の森づくり

・ 1999年 丹沢(国有林)	:170名;2,000本
・ 2000年 三田(共有林)	:160名; 150本
・ 2001年 北蔵王(国有林)	:250名;1,000本
・ 2002年 岡山美作(町有林)	:150名;1,000本
・ 2003年 鬼怒川上流(国有林)	:350名;4,000本
・ 2004年 琵琶湖東部(私有林)	:230名; 500本
・ 2004年 筑波山麓(国有林)	:230名; 540本
・ 2005年 木曾川南部(私有林)	:340名;1,000本
・ 2005年 白山市白峰(市有林)	:350名; 700本
・ 2005年 千歳国有林(国有林)	:250名;1,200本
・ 2006年 富士山麓(国有林)	:240名; 500本
・ 2006年 小石原川上流(国有林)	:260名;1,200本

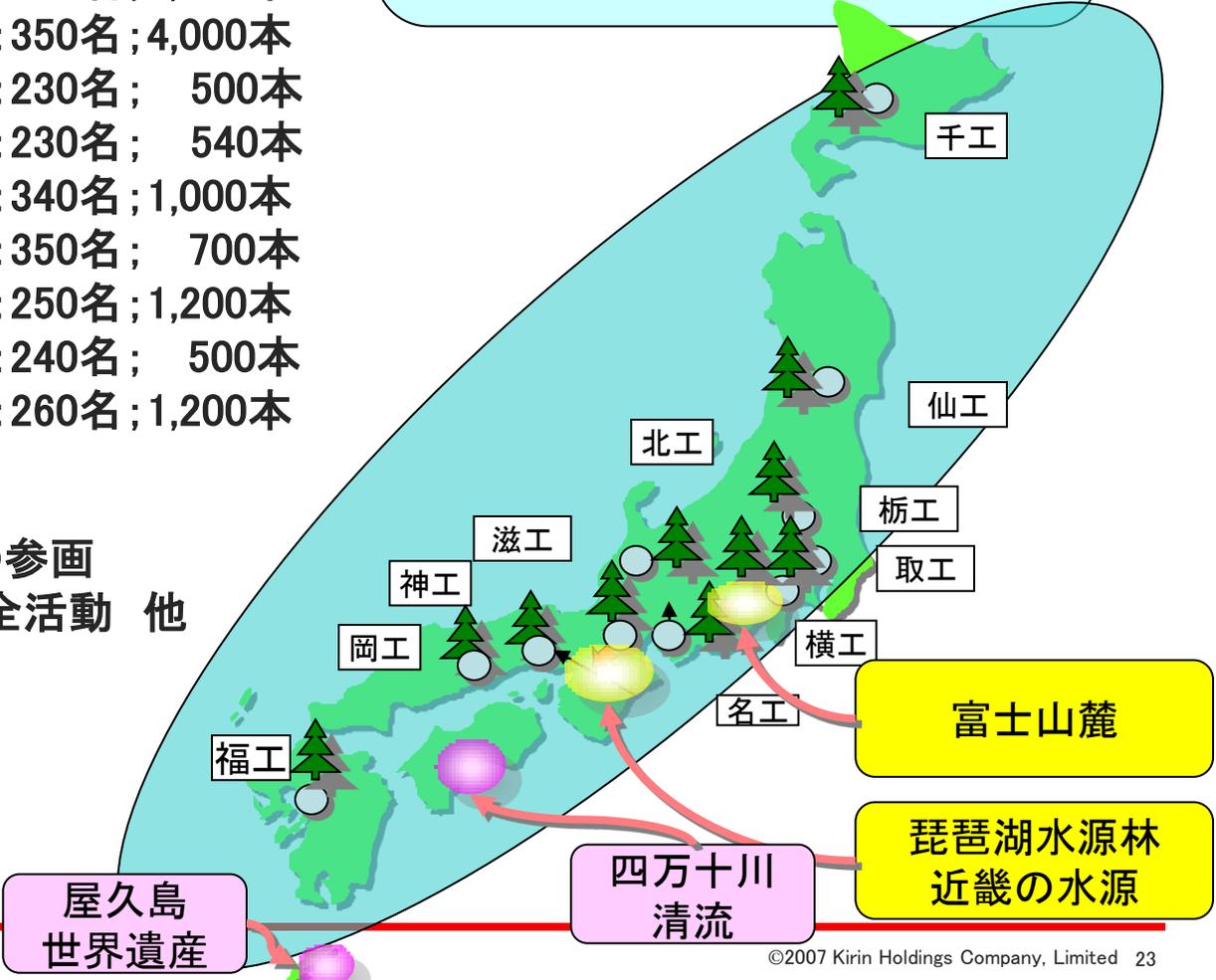
ビール工場の取水源上流の森林に、
 毎回1ha前後、社員と地域の方々と
 で植林を実施。
 その後、下草刈りなどのフォローも継続。
 全国11カ所のビール工場+御殿場蒸溜所
 で実施済み。

●各地での地域連携

- ・ 1999年～屋久島ゼロエミッション構想への参画
- ・ 2004年～高知県四万十川他清流保全活動 他

●広域水源保全

- ・ 2005年 琵琶湖水源林820ha
- ・ 2006年 富士山麓 43ha



自然環境保全 — 九州地区本部～屋久島環境保全プロジェクト

日本で初めて「世界自然遺産」に登録された屋久島で推進しているゼロ・エミッション構想に賛同し、1999年より継続的な支援活動を行っています。年2回行われている、全島をあげてのクリーンアップ活動に毎年社員ボランティアが参加をしています。

また、屋久島での当社ビール・発泡酒の売上の一部を島の環境保全活動に役立てるために寄付をしています。(ビール・発泡酒大びん1ケースあたり89<ヤク>円を寄付)

より住みやすく安全な地域社会になるように、それぞれの地域に根ざした環境保全活動を社員参加のもと、全国で展開しています。



秋のクリーンアップ活動



屋久杉



1994年より社員が持ち寄った本やCDを社内でチャリティー販売する「チャリティーブックフェア」を開始しました。その収益金を元に児童擁護施設の子どもたちを東京ディズニーランドへ招待し、社員が1日サポートする活動を行なっています。2005年までに計39回実施し、1,998名の施設の子どもたちを招待し、社員ボランティアは累計445名となりました。



参加した子どもたちとボランティア

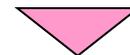


参加した子どもたちと関係者・ボランティア

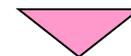
【活動の流れ】



社員が読み終わった本を事務局に持参



社内で集まった本をチャリティー販売する「チャリティーブックフェア」を首都圏地区にて開催



チャリティーブックフェアの収益金をもとに児童養護施設の子どもたちを、東京ディズニーランドに招待をし、社員ボランティアと一緒に1日遊ぶ！

より良い地域づくりを目指し、キリンビール事業所近隣の福祉施設や小・中学校等に「キリンこち開花」の花苗を植栽し、街の美化活動に役立てる取り組みを2004年より継続実施しています。



国際交流 — 国連大学キリンフェローシッププログラム

1993年よりアジアを中心とした途上国における食糧問題の自主解決にむけて、食品にかかわる科学 技術分野の研究開発を支援。アジアを中心とした研究機関から毎年国連大学が推薦する5名の研究者を対象に支援を行なう。研究者はそれぞれの研究テーマについて食品総合研究所にて1年間の研究を行ない、帰国後2年間の研究開発費用を含めたフォローアップ支援も実施。日本とアジア諸国との学問領域を越えた長期にわたる交流に貢献している。

【活動の効果】

- 食品会社として途上国の抱えている食糧問題の自主 解決へ向けての貢献
- 食品総合研究所およびアジア地域の食品研究所との関係強化
- アジアの研究所及びその所長クラスの要員とのネットワークづくり



キリンビール横浜工場訪問（2006年度フェロー）

中国	16
タイ	7
ベトナム	13
インド	17
スリランカ	1
フィリピン	1
バングラデッシュ	5
モンゴル	7
インドネシア	1
合 計	68名

<1993－2006年UNU-キリンフェロー国別リスト>

おいしさを笑顔に

KIRIN